

令和2年度第1回島田市男女共同参画推進委員会 会議要録

1 日時

令和2年11月17日（火）19:00～20:30

2 場所

島田市役所 第3委員会室南

3 出席者

委員：犬塚委員（WEB参加）、山本委員、池谷委員、松村委員、磯崎委員（出雲委員は欠席）

事務局：松村課長、田中課長補佐、杉本主事（市民協働課）

4 内容

1 開会

松村市民協働課長が開会のあいさつ。

2 報告事項

(1) 令和元年度男女共同参画推進事業報告について

資料1にしたがって、事務局より説明。

《質疑・意見》

D委員：推進会議幹事会とは、どのような人たちが構成しているのか。また、委員会の意見や提案などについて、庁内会議（推進会議と幹事会）で報告されているのか。ヒアリングでの意見がどう施策に反映されているのかが見えてこない。

事務局：幹事会は、関係している19の所属から、課長補佐級以下の職員を各1名推薦してもらい構成している。委員会は基本的に、幹事会→推進会議→推進委員会の順に議題を上げていっており、推進委員会が最終決定機関となる。そのため普段の議題では推進委員会の内容が庁内会議に返されるケースはあまりない。しかし、事業ヒアリングの内容などについては、幹事会や推進会議でも報告しており、所属職員や担当部長も把握し改善について検討していると思う。その改善状況や取り組み状況については把握し、フィードバックできればと思う。

D委員：関係行政機関会議について、県の会議で県の施策について確認していることと思うが、市の施策とのずれなどはあるのか。

事務局：計画など施策の大きな流れは、県の施策や計画を踏まえて作成しているため大きなずれはない。また、市と県ではそもそもの役割が違う部分があるかと思う。その他関係行政機関の会議では、他の市町と情報共有し施策に反映していくという意義もある。

A 委員：市の役割と県の役割は当然違う。県はサポートや情報提供を主に行っている。また、市町の横のつながりを作ることも重要な役割。交流し意見交換する機会としてほしい。

(2) 令和 2 年度男女共同参画推進事業計画について

資料 2 にしたがって、事務局より説明。

《質疑・意見》

A 委員：地域防災リーダーの研修会で、講師を招いての講座は中止になったとのことだったが、他市町では工夫して防災講座など実施しているところもある。いろいろな手法を使って実施を検討して行ってほしい。

A 委員：女性の人材育成講座では、継続して講座を実施して審議会等に参加できるような人材を育成していることと思う。これからは育った人材をどう生かしていくか、目的を明確にして委員候補となる人材をフォローして行っていただきたい。

D 委員：講座やその他事業など、いずれにしても密を防いで実施して行っていただきたい。

(3) 第 7 回島田市女性議会の実施について

資料 3 にしたがって、事務局より説明。

《質疑・意見》

C 委員：女性議会はいろいろなテーマの質問が出て盛り上がっていたと思うが、今年は人数も少なく寂しいように感じる。参加者が少なかったのは、規模を縮小するために絞ったからか。それとも、応募が少なかったためか。

事務局：募集をかけていた 4～5 月頃は、新型コロナウイルスの感染拡大により緊急事態宣言のあった期間。自粛ムードがかなり強かったため、応募数も少なかったが、それでも参加の意思を表明してくれた 3 名の気持ちを尊重し、規模を縮小して開催した。

B 委員：傍聴者は何人ほどいたのか。

事務局：次第にもあるとおり、感染症対策のため傍聴者も制限したため 6 名のみだった。しかし、今年は YouTube でライブ配信を行い延べ 75 回の視聴があった。また、開催後に動画を分割して YouTube の島田市チャンネルに掲載し、そちらは延べ 204 回（10 月 23 日時点）の視聴があった。直接の傍聴者は少なかったが、女性議会を新しい形でより多くの人に知ってもらうきっかけとなったのではないかと思う。

A 委員：本年度は、例年開催している街頭広報が実施できなかったため、ゼミ学生が参加する場として女性議会当日の運営参加を検討していた。しかし、夏場の新型コロナ感染拡大があり、当日参加が叶わなかったため、学生に動画を視聴してのアンケートを実施した。それについてもこの場で報告してほしい。

事務局：本年度はコロナの影響で街頭広報が実施できなかったため、女性議会での大学生との連携を企画した。当日、静岡県立大学の学生たちに女性議会の運営を体験してもらい、それを啓発事業の代わりとする予定だった。しかし、再びコロナの感染が広がっていたため、当日の映像を YouTube で観てもらい、そこから感想や改善案などを出してもらおうアンケート調査を実施した。学生からは「女性議会を大学キャンパスで行う」「SNS や WEB などを活用してアン

ケートをとる」など若者ならではの視点からの意見が多くあった。今後活用して女性議会をよりよくしていきたい。

D 委員：こういった委員会の場、その他日頃の生活や職場などでいろいろな人たちと意見を交わしているが、大学生の意見はなかなか聞くことができないので貴重。ぜひ委員会にも情報提供していただきたい。

3 協議事項

(1) 第3次島田市男女共同参画行動計画実施計画書 実績評価基準の見直しについて

資料4にしたがって、事務局より説明。

《質疑・意見》

B 委員：資料の中で評価パターンの名称が統一されていなかったと思う。名称は統一していただきたい。

事務局：最初の資料（見直しの方針案）にあるとおり、その後ろの資料も修正する。

D 委員：よく考えていただいているなどと思う。しっかり数字で現状を把握するためには必要なもの。ただこれが100点、完成形というわけではなくどんどん改善していってもらいたい。これを基に議論を深めていきたい。事業ヒアリングを行う上でも、目標数値がはっきりしているのにより深く議論しやすくなる。パターンとしてはいいが、目標値の設定がとても重要になってくる。議論をより具体的によくしていくための手段として活用していきたい。

A 委員：せっかくヒアリングを行って評価をしているのに、なかなか客観的な評価方法が確立されていなかった。そのため、評価をきちんと積み上げていくことができていなかったと思う。今回の変更によって問題点を整理し、評価パターンを明確化された。パターン3つに分けることも分かりやすい点。達成率の考え方を取り入れていることも比率で客観的に見えるため分かりやすいと思う。国立女性会館も数値化された資料を用いて徹底的に事業評価をしている。それに近いものも感じる。今回、評価パターンに当てはまらない事業や、数値化されていない事業などをどうしていくかという課題も明らかになった。この考え方で見直しを進めてもらいたいと思う。事業ヒアリングもしやすくなるのではないかな。

E 委員：評価基準の見直しについて異論はない。評価の指標として、たとえば他部署との連携率のようなものを追加してはどうか。

A 委員：男女共同参画がうまくいかない原因の一つに「横との連携」がある。率として数値化するのは難しいが、最終的な総合評価の時に課同士がどの程度連携したかを盛り込んでみてもらいたい。

A 委員：評価パターンの名称についてだが、「マイナス指標」という言い方が少しネガティブなように受け取れるし分かりにくいのでは。例えば「削減指標評価」などと変えてもらえると分かりやすいのでは。

4 その他

事業ヒアリングを、12月～1月頃に開催を予定しているが、今回の評価基準の見直しのため令和元年度の実績評価ができていない。そのため、ヒアリングをどの時期に行うか委員へ意見を求めた。

A 委員：昨年度は11月に事業ヒアリングを行っていたと思うが、従来は年度前半・中盤頃にヒアリングを行い、次年度の施策に反映してもらいたいという狙いがある。しかし、今年度はコロナの影響で、委員会自体もなかなか開催できない状況だった。そこで、本年度のスケジュールとして具体的には、①評価見直しを行い、新しい基準で令和元年度の実績を評価してから年度末頃にヒアリングを行うか②新しい実績は抜きにして現状の形で事業ヒアリングを行うかの2案になるかと思う。委員の皆さんはどうか。また事務局とは考えはいかがか。

事務局：5年間の計画なので、評価をしっかり固めてこの基準で令和元年度から評価をしっかり行っていきたい。まず内を固めていきたいという考え。

E 委員：先に評価見直しをしてもらえれば良いと思うが、ヒアリングのアンケートを提出させてもらったので、その答えをいただくとありがたい。その答えがあればとりあえずヒアリングは評価見直しが終わってからでいいと思う。

事務局：承知した。委員の皆さんからいただいたアンケートに対する答えは、ヒアリングとは別に用意し、お答えさせていただく。